



Q1 ぎぼしを
かいてみよう

江戸東京博物館の常設展示室に入るとすぐに、とても大きな橋がかかっています。これは、江戸時代（1603〜1868年）につくられた日本橋という橋を、長さを半分にして再現したものです。

A 江戸のシンボル 日本橋

マップ A 〈日本橋〉

Q3

日本橋を渡って、感想を書いてみましょう。

Q2

下の写真は今の日本橋です。昔の日本橋とどんなところが違いますか？気づいたことを書いてみましょう。



上は高速道路。
下の橋が日本橋です。

Q1

写真の一部が抜けていますが、この部分を「ぎぼし」と言います。日本橋にとって大切なかざりでした。ぎぼしをよく見て、抜けているところに絵をかきましょう。

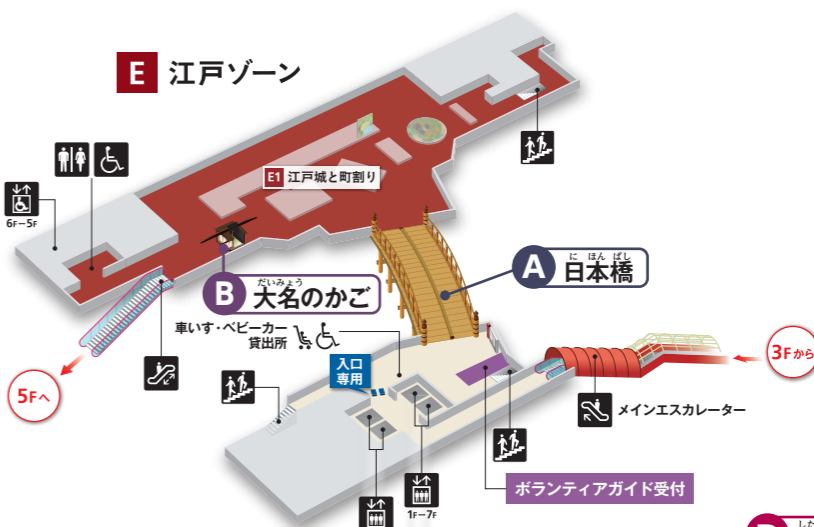
メモ



6F

車いす・ベビーカー専用のエレベーターです
警備員が誘導します

E 江戸ゾーン



5F

車いす・ベビーカー専用のエレベーターです
警備員が誘導します



江戸東京博物館 常設展示室 案内マップ



出口は5Fです。
ほく、ギボちゃん。日本橋の欄干擬宝珠がモデルだよ。

大名かごに乗ってみよう

だ い み よ う

江戸時代のお殿様(大名)は、移動するとき、かごに乗っていました。

Q1 このかごは何人でかついだのでしょうか。

「 人 」

Q2 みなさんは移動する時、どんな乗り物に乗りますか。思いついたものを、あげてみましょう。

[]

Q3 かごに乗ってみましょう。乗りこむのはどうだったか、感想を書きましょう。

[]

お殿様はこれに何日間も乗り続けていたんだよ。

マップB (大名のかご)



体験しよう!

た い け ん

Q1 現在の消防士の役割をした「町火消」と呼ばれる人たちが火事場で使いました。これを何と言いますか。

「 」

Q2 この道具には文字が書いてあります。ひらがな文字で何と書いてありますか。

「 」



マップC



マップC (肥桶)

Q3 野菜を作るとき、土に栄養を与えます。これを肥料と言います。江戸時代の人たちは、ある意外なものから肥料を作っていました。それは何でしょうか。

「 」



マップC (千両箱)

これは小判を入れるための箱です。千両箱と言います。ゆっくり持ち上げて重さ確かめてみましょう。

D へんげんてみよう道具のいま・むかし

昔の人たちが使っていた道具をあげてみました。電気やガスが使われるようになったことで、人びとの暮らしはどのように変わっていったのでしょうか。

江戸時代の町人が住んでいた「棟割長屋模型(江戸ゾーン)」と、昭和初期の「下町の庶民住宅」模型(東京ゾーン)の家の中を見て、あゝえまでの道具を探してみましょう。

Q1 あゝえまでの道具は、何をするために使われていたのでしょうか。「 」内を書いてみましょう。

Q2 下のあゝえまでの4つの道具が、今ではどのような道具になっているか、線を書いて、正しい組み合わせを作ってみよう。

マップD (下町の庶民住宅)

マップD (棟割長屋)



かまど、かま

[]

ための道具

あ



洗濯板、たらい

[]

ための道具

い



行灯

[]

ための道具

う

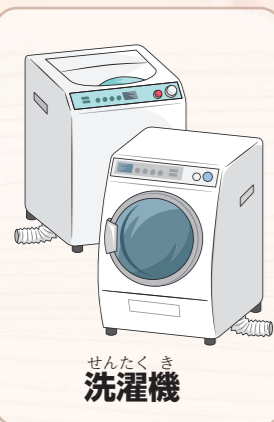


わら草履

[]

ための道具

え



洗濯機

か



靴

き



電気炊飯器やガスコンロ、IHなど

く



蛍光灯や電球など

け